

### 1. 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500072		
法人名	社会福祉法人うねび会		
事業所名	ぼれぼれケアセンター白檀 グループホーム(うねび東)		
所在地	奈良県橿原市北越智町322		
自己評価作成日	令和3年5月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和3年6月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぼれぼれケアセンター白檀の大きな窓からはうねび山が一望でき、隣には新沢古墳群もあり、春は満開の桜が楽しめ、自然に恵まれています。2ユニットあり、全室に洗面台・トイレ・ワードローブ・枕頭台・ベッドが備え付けており、プライバシーに配慮された生活を送ることができます。

また、暮らしの基本である「食事」「排泄」「睡眠」「入浴」への個別的な支援に加え、日常生活において、個別に役割を持っていただくことで、いきいきとした生活を送っていただけるよう支援しています。年間を通して、様々な行事を行い、季節を感じていただく事を大切にしています。

また、社内におけるキャリアアップ研修や様々な外部研修で職員の育成を行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄橿原神宮前駅よりバス5分の便利なところにあり、建物は鉄筋造り4階建ての4階部分に2ユニットのグループホームがある。建物の1階はデイサービスや保育園、2・3階は地域密着型特別養護老人ホームがある。グループホームの居間や居室からの眺めがとても良く、奈良盆地を一望することができる。居室内は比較的広く、トイレと洗面台が設置されている。「尽道楽生」~ゆっくり、楽しく、一緒に~の理念のもと、一人一人の尊厳と自立支援を大切にシワンランク上のサービスを目指している事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500072		
法人名	社会福祉法人うねび会		
事業所名	ぼれぼれケアセンター白檀 グループホーム(うねび西)		
所在地	奈良県橿原市北越智町322		
自己評価作成日	令和3年5月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和3年6月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぼれぼれケアセンター白檀の大きな窓からはうねび山が一望でき、隣には新沢古墳群もあり、春は満開の桜が楽しめ、自然に恵まれています。2ユニットあり、全室に洗面台・トイレ・ワードローブ・枕頭台・ベッドが備え付けており、プライバシーに配慮された生活を送ることができます。  
また、暮らしの基本である「食事」「排泄」「睡眠」「入浴」への個別的な支援に加え、日常生活において、個別に役割を持っていただくことで、いきいきとした生活を送っていただけるよう支援しています。年間を通して、様々な行事を行い、季節を感じていただく事を大切にしています。  
また、社内におけるキャリアアップ研修や様々な外部研修で職員の育成を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄橿原神宮前駅よりバス5分の便利なところにあり、建物は鉄筋造り4階建ての4階部分に2ユニットのグループホームがある。建物の1階はデイサービスや保育園、2・3階は地域密着型特別養護老人ホームがある。グループホームの居間や居室からの眺めがとても良く、奈良盆地を一望することができる。居室内は比較的広く、トイレと洗面台が設置されている。「尽道楽生」~ゆっくり、楽しく、一緒に~の理念のもと、一人一人の尊厳と自立支援を大切にシワンランク上のサービスを目指している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時研修や毎年4月のキャリアアップ研修で理念について共有をしている。各ユニットの年間目標も理念を意識したテーマで目標を立て実践に向けた取り組みをしている。	法人の理念を重要事項説明書に記載するとともに、事業所の目につくところに掲示している。毎年4月の法人の研修で、職員全員理念について研修し共有している。また、事業所ごとユニットごとに年度目標を立て、個別ニーズに応じた支援に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染が拡大するまでは、様々なイベントやボランティアの方とご利用者のふれあいが盛んであったが現在は中止している状況である。	コロナ禍で感染予防のため、ギターや大正琴の演奏、アニマルセラピーや紙芝居などのボランティアの訪問が中止になり、地域のお祭りなども中止される中、小学校の文化祭に利用者の作品を出品したり、高校の吹奏楽部が庭で演奏会をしてくれたりして交流を図った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会や相談は随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策で2ヶ月に一度、書面開催という形式で活動内容を家族・行政・民生委員・第三者委員等に議事録を送付している。また、アンケートも実施し、ホームページに掲載している。	運営推進会議は、市の担当者、自治会長、民生委員、地域の第三者委員、家族などが参加し2か月に1回開催してきたが、コロナ禍で感染予防のため書面開催に切り替えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な報告・相談・質問等を市担当者と連絡をとっている。市からの介護相談員の訪問は新型コロナウイルス感染対策で中止している。	市の担当課の窓口へ直接出かけ、必要な手続きや相談を行ってきたが、コロナ禍でなるべく郵便や電話で行っている。コロナウイルス感染予防について、市の担当課より指導を受けるとともに、利用者のワクチン接種がスムーズに実施できるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修や社内のキャリアアップ研修で身体拘束について学んでいる。職員は日常の中に身体拘束になっている事例はないかを意識して話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	毎年、身体拘束をしないケアについて介護職員、事務職員、ドライバーなど全職員が研修を受けている。また、ケア会議でも具体的な事例を話し合っ共有している。なお、転倒リスクが高い利用者に対して、夜間センサーマットを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時研修や事故対策委員会によるキャリアアップ研修で虐待について学ぶ機会をもち、些細な事でも虐待になっていないかを考え、話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は社外、社内研修に参加し学んでいる。家族から成年後見への相談があった際には話し合い、成年後見制度への協力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は一連の説明を行い、また家族から疑問点を聞き、理解。納得をしていただいてから契約書や重要事項説明書に署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があった時は近況の報告を行い、意見・要望を聞いている。遠方の方やコロナ禍になってからは定期的に電話で日々の様子を報告している。2ヶ月に1度の書面開催の運営推進でも活動報告を行い、またアンケートでご意見をいただき、ホームページに掲載している。	現在、コロナ禍で家族の面会を制限しており、主に電話で家族と情報交換をしており、利用者と替わって話をしてもらうこともある。感染者数が減少すれば面会を再開する予定である。また、利用者や家族からアンケートを取り、サービスの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個々の面談や月1回のカンファレンスにおいて意見や提案を聞いている。業務改善会議や部門別会議、各委員会で意見や提案を発表し業務改善に反映している。	日々の活動の中で管理者は職員と情報交換をしているが、運営に関する大事なことは月1回のケア会議で話し合っている。職員の意見で、清拭タオルを使い捨ての紙タオルにした。また、年2回職員との個人面談の機会があり、職員の目標や思い、意見などを聴いて業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスのモデルを使用したり、評価が高い職員に施設から賞賛があり、それぞれの職員の希望に沿った労働時間・労働日数で勤務してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人採用時研修は必須、全職員は毎月のキャリアアップ研修を実施。参加できなかった職員はレポート提出をしている。また職員に応じて、社内外の研修を受ける機会を設け職員の人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり。他施設との交流はないが、ひまわりの会との部門別会議で、活動の報告等で情報交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々ご利用者の気持ちに寄り添えるような、関係づくりを目指している。不安や困りごとの訴えがある場合はその都度傾聴し安心していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様から心配なことや要望を傾聴し、施設側として精一杯のケアをさせていただき事をお伝えし、安心してご入居していただけるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった際、本人と家族の立場に立って、他のサービス利用を含めた支援方法の検討を行いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかでご本人の思いを大切にしながら、できる事を見つけ、いきいきとやりがいを持って生活していただくことで、お互いに支え合っていると思えるような環境づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で日常の様子をお伝えし、また家族様からも情報をいただき、家族様の要望も聞きながら、一緒にご本人を支援していくという関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルス感染対策で様々な制限があり、関わりが持てない状況である。	利用者の馴染みの人や場所についての情報は、入居時に家族から聞くようにしている。以前は、家族と一緒に馴染みの美容院に出かけることもあったが、現在は訪問美容を利用している。家族が面会ができにくい状況であるので、利用者の写真を送るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格等を把握し、職員が関わり、レクレーションをしたり、会話をしたりして、ご利用者同士の関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居の際は相談に応じて支援を行っている。入院された時はその後の経過を随時家族様や病院に問い合わせをし情報共に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人の希望、意向を把握できるよう、関わりを持ち、一人ひとりが自分らしい暮らしをしていただけるよう支援している。	日々の生活の中で、利用者に寄り添い食べたいものや行きたいところ、好きなことなど思いの把握に努め、利用者が楽しい暮らしができるよう支援している。また、「東京センター方式」のアセスメント用紙を記入する中で、利用者の思いの把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や習慣を把握することで、ご本人の生活リズムを提供できるように努めている。家族様からも様々な情報を聞き取り、少しでも馴染みの暮らし方ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の現在の心身の状態を把握し、ご本のペースに合った過ごし方をさせていただきよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者、家族、看護師によりカンファレンスを行い、方針を話し合う。それに伴い介護計画を作成し日常に反映する。毎月のカンファレンスで職員同士で意見を出し合い、モニタリングを行い計画作成を行っている。	利用者や家族の思いとケア会議で話し合ったことを参考に利用者の生活全般の解決すべき課題を考え、ケアマネージャーが介護計画を立てている。モニタリング結果をまとめ、基本的に半年ごとに更新している。	利用者の生活全般の解決すべき「課題」だけでなく、センター方式のアセスメントシートで得られた情報をもとにプラス面からアプローチした「笑顔が増えるプラン」もあれば良いと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果など個人別に記録し、職員が申し送りを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の要望に応じて、看護師・管理栄養士と連携し、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であっても施設の周辺を散歩したり、なるべく外の環境にふれていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望によりかかりつけ医を決定し連携を図っている。家族同行による受診の場合も日々の介護記録を用意し家族様に持参していただくよう支援している。	事業所の内科の協力医が、2週間に1回訪問診療を行っている。利用者や家族の希望により、歯科医の訪問もある。他の医科へは基本的に家族が付き添って通院している。看護師が週1回訪問し、利用者の健康に気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、24時間連絡体制をとれるようにしており、些細な体調変化でも相談・指示をもらえる体制をとり、安心して生活が送れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成・提供を行い、入院中は病院と密に連絡をとり、状況把握に努めている。退院時は病院から退院後のケアの方法の引き継ぎをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の希望や医師の判断により、看護師と連携しターミナルケアを行っている。入居時に終末期の過ごし方について、家族様に意向を確認し、重度化した場合や終末期には家族様とかかりつけ医とのカンファレンスを行い、方針を決定している。	看取り介護についての指針があり、利用開始時に利用者や家族に説明し、意向伺っている。重度化した場合は、再度利用者や家族から意向を伺い、思いに沿った支援を行っている。事業所での看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故対応」マニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている。また、採用時研修・キャリアアップ研修でも急変時の対応を学んでいる。緊急連絡先一覧表も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については2ヶ月に一度避難訓練を行い、全職員が安全に避難できる方法を身につける様に努めている。また、直接消防署の方に来ていただき、訓練の指導を受け、協力体制づくりに努めている。	2か月に1回、火災や地震、不審者の侵入や行方不明など、想定を変えて訓練を実施している。ソーラー発電や自家発電を用意しており、停電時でも安心な備えがなされている。また、食料や水の備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、なじみの関係の中にも常に人生の先輩として敬う気持ちを持って接している。	人生の先輩として利用者の尊厳を大切に、名前は苗字にさん付けで呼んでおり、居室に入るときは必ずノックをして本人の許可を得て入るようにしている。入浴や排泄の介助でも、プライバシーに配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面や日常において、ご利用者とコミュニケーションを図り、自己決定できる環境を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやその時の気分や希望に応じた、過ごし方をさせていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んでいただいたり、季節に応じた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の給食員会で、ご利用者の意見や希望を聞き、厨房と連携を図っている。お味噌汁とご飯はユニットで作っている。ご利用者にもお盆を並べていただいたり、出来る事をさせていただいている。	食事は、惣菜は1階の厨房でつくられ、ご飯とお味噌汁はユニットごとにつくられ、でき立てを提供している。利用者ごとに食べやすい形態にしている。給食委員会で利用者の希望も聴いている。また、イベント食も多彩で、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携をとり、栄養バランス、食事形態を考えている。日常記録に食事量・水分量を記入し、ご利用者の体調の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、職員による声掛けや誘導で口腔ケアを行っている。また、ご本人・ご家族希望により、歯科定期往診時、専門的な口腔ケアを受けておられる方もいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないようにトイレの声掛けや誘導を行っている。	各居室にトイレがあり、安心して排泄することができる。利用者の排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声掛けやトイレ誘導を行っている。トイレに座って自然な排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便一覧表を用意し、毎日排便記録を行い、職員が状態を把握できるようにしている。水分摂取量にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望に沿って入浴していただくようにしている。入浴前はバイタル測定や状態観察を行い、安全に快適に入浴していただくよう支援している。	浴槽は家庭浴槽で、リフトが設置されており、車いす利用者もゆっくりお湯につかることができる。基本的に週2回入浴ができるよう支援している。お湯に入浴剤を入れたり柚子を入れたりして、色や香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないよう、生活リズムを整え、日中の過ごし方を工夫している。また快適に眠れるよう、居室の温度調節にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、薬の確認がすぐできるように管理している。体調に変化があれば看護師と連携し、主治医に相談。処方の変更があれば、申し送り・報連相ノートに記載、職員全員が周知し、その後様子観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でそれぞれに出来る事(洗濯物干し・たたみ・食事の準備等)をしていただいている。また、様々なレクを提供し、楽しみをもっていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染対策により、現状では外出はできない状況ですが、家族様同行での病院受診は出かけていただいている。また、ベランダでの外気欲や中庭での散歩は継続している。	コロナ禍前はドライブして花見や紅葉などを楽しんでいた。現在は外出ができていない状況であるが、4月には事業所西側にある千塚古墳で花見を行った。天気の良い日は、中庭に下りたり、広いベランダに出て外気浴やお茶を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望でお金を所持されている方もいるが、家族様の希望で所持されていない方が多い。買い物の希望があれば家族様に連絡し、持参いただいたり、施設立替で代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話連絡した際やかかってきた際に電話に出ていただいたり、家族様からのお手紙を取り次いだりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで大きな窓があり明るく、広々とした空間となっている。長い廊下の両側に居室があり、共有部分とプライベート空間が分けられている。	グループホームは建物4階にあり、居間兼食堂の南側に大きなガラス窓があって、とても明るく見晴らしも良い。テーブル席の他にカウンター席やソファがあり、思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には季節感が分かる利用者の作品が飾られている。また、廊下の突き当りに談話コーナーが設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他に、くつろぎやすいソファやカウンター席が設置されており、決められた場所ではなく、好きな場所で自由に過ごしていただくことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりした空間で、プライバシーにも配慮し、可動式扉付きトイレ、洗面台を設置し内側から施錠可能にしている。また、思い出の物や馴染みの物を持参していただき、安心できる居心地の良い空間になるように工夫している。	居室は比較的広く、大きな窓があって、そこから奈良盆地を遠くまで眺めることができる。居室内には洗面台やトイレ、ベッドや洋服ダンスが設置されており、お気に入りの机や椅子、テレビや冷蔵庫などを持ち込み、快適に暮らすことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全面バリアフリーの作りとなっており、あらゆる場所に手すりを設置し安全性を高めている。浴室はリフト付きで滑りにくい床材を使用し、安全面に配慮している。		